



第 133 号

令和 4 年 7 月 20 日発行

可児市教育委員会

可児市教育研究所

可児市広見 1 丁目 5 番地

TEL(0574)63-4841

e-mail :kyoikukenkyu@city.kani.lg.jp



笑顔の学校

がんばれ、新米指導員！

可児市教育長 堀部 好彦

今年度、ばら教室学習指導員にフィリピン籍の 18 歳女性が着任しました。

彼女は中 1 の時、先に日本に行き仕事をされていたご両親のもとへ。ご両親との暮らしが戻ってからは、まずばら教室で学び、その後蘇南中学校で学校生活を始めました。そして、東濃高校に 3 年間通い、ばら教室の指導員を志し選考試験に見事合格！

ばら教室で学んだ外国籍の子どもが、今、指導員としてその教室の教壇に立っているのです。教室の指導者の方々は、かつての教え子が自分たちの仲間となったことについて、「あの子は、私たちの自慢の子、可児市の宝」とおっしゃいます。

是非、彼女に会って話がしたいと思いました。本人とばら教室の方々のご理解により、面談が実現。終始笑顔で、はきはきとした対応ぶりに、爽やかさと頼もしさを感じました。

日本語がわからなくて学習内容が理解できず随分苦労したけど、ばら教室や蘇南中学校、東濃高校の先生方、同じ外国籍の仲間の支えのおかげでここまで来ることができたそうです。「だから、ばら教室の子たちに優しく教えてあげたい、そして、自分に合った仕事を見つけてほしい」と志を語ってくれました。

美術科や家庭科、体育科の授業が特に楽しかったこと、体育大会でみんなと一緒にやった競技はフィリピンにはなくて驚いたけどとてもおもしろかったことなど、6 年間の学校生活や仲間との思い出も教えてくれました。

面談はあっという間に 1 時間が過ぎました。これ以上彼女の勤務時間を奪ってはいけません。最後に一つ問いかけました。「日本に来てからの 6 年間で、どんなことが成長できたと思う？」しばらく考え込んだ彼女。首を少し傾げながら「ジ、ド、ク？」との返事。

ジドクの意味を考えていると、今度は「ジリツ」と言い直しました。「自立」でした。見事に日本で自立して生きていく足掛かりを掴んだ努力に、心から拍手を贈りたいと思います。

幼い頃ご両親と離れ別々の国に暮らし、日本に来てからはこの国で家族を養うために必死で働くご両親の背中を見ながら思春期を過ごした彼女が語る「自立」の言葉には、母国を離れ日本で生きる覚悟が滲んでいました。

ばら教室に通う小学生からは、「いつから先生？ 何歳？ どの高校に行ったの？ どうして高校に行ったの？」などいろいろ質問されるそうです。興味津々。フィリピン籍 18 歳女性新米指導員は、外国籍の子どもたちの希望の光になっているのではないのでしょうか。

希望の光となった新米指導員の「笑顔の“もと”」は、ご両親の懸命な生き様とばら教室に始まる学校教育が育んだものでしょう。「笑顔の“もと”」には枕詞を付けて、未来の笑顔につながる「笑顔の“もと”」としたいと思いました。今回の面談は、可児市「笑顔の学校」づくり第 2 ステージで目指す姿について考えさせてくれました。がんばれ、新米指導員！

令和4年度 可児市教育研究所

「笑顔の“もと”」重点事業



可児市では、子どもたちや先生、保護者、地域の方々等の笑顔があふれるような「笑顔の学校」づくりを推進しています。その学校づくりを通して、児童生徒に育まれる資質・能力や心情を「笑顔の“もと”」とし、自分には今だけでなく未来の笑顔につながる「笑顔の“もと”」があることを、一人一人が自覚していけるようにしたいと考えています。そのため、可児市教育研究所では、以下の6点を今年度の「笑顔の“もと”」重点事業として取り組んでいます。

① 不登校対策「よりよい認知を育む心理教育プログラム」の作成

「嫌なことを言われたらやり返してもよい」「不安やストレスを感じる自分は、どこかおかしいのかもしれない」など認知が間違っていると、周りとうまく活動ができないことがあります。「生活習慣スキル」「感情・ストレスコントロール」「対人関係スキル（認知の修正）」等のエクササイズ・プログラムを発達段階別で作成し、令和5年度に各小中学校に配布します。

② 不登校対策「アーラまち元気プロジェクト」の推進

可児市文化創造センターalaと教育研究所（スマイリングルーム）、学校が協働し、小中高校生と地域の方々が文化芸術活動を通じてふれあう活動を推進します。そこから生まれたつながりを、学校や地域、劇場に生かしていく「まちを元気にする活動」を行うことで、アフターコロナの子どもたちの「笑顔」につなげます。

③ 特別支援教育「担い手」の育成

今年度の特別支援学級数は、市全体で70学級となり、年々増加傾向にあります。また、文部科学省の報告では、障がいのある子どもの学びの場の整備・連携強化、ICT利活用等による特別支援教育の質の向上等が盛り込まれています。特別

支援教育を担う教師の育成と専門性の向上を図る仕組みを構築し、児童生徒一人一人の教育的ニーズに的確に応える指導の充実を目指します。

④ 外国籍児童生徒教育「外国人児童生徒キャリア支援事業【県指定】」の推進

可児市の小中学校には、多くの外国籍児童生徒が通っています。この子どもたちの就職・進学率の向上を目指して、小中高の連携強化による個別支援の充実、デジタル教科書やGIGAタブレット等ICT機器の効果的な利用、キャリア・パスポートの作成等を行います。これにより、外国籍児童生徒のアイデンティティの確立をサポートします。

⑤ ICT教育「GIGAスクール構想」各校の課題に応じた支援の充実

昨年度は、児童生徒に一人一台端末が整備され、デジタル教科書を活用した授業やオンライン授業等が行われました。今年度は、各校の実態や多様化する児童生徒のニーズに合わせたより効果的なICT機器の活用を行い「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を支援します。また、GIGAスクール運営支援センターを新設し、各学校を訪問することを通して、課題やニーズに合わせたサポートを行います。

⑥ 幼保小連携「幼保小の架け橋プログラム【県指定】」の推進

未来の笑顔につながる「笑顔の“もと”」を育むためには、小中学校の学びだけではなく幼稚園や保育園等と連携・協働し、同じ方向性をもちながら子どもを支援することが大切であると考えます。幼保小の連携を強化し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導改善プログラムや幼児の支援ニーズに合わせた切れ目のない支援プログラムの開発実践をモデル校区にて行い、各小学校区へ広めていきます。

学校所員会の今年度の活動について

●学校所員会

<テーマ>

「自ら考え、仲間と学び合い、表現する子の育成～協働学習の理念に基づいた授業づくりを通して～」

<研修計画>

回	月日	内 容
1	5/11	<研修> 「笑顔の“もと”」を育むための学習活動について
2	6/8	<研修> 「協働学習」の進め方
3	8/17	<授業研究構想の交流> 「笑顔の“もと”」を育む学習について交流
4	9～12月	<授業実践・研究会> グループに分かれて授業参観・交流
5	1/19	<実践発表・交流> 発表会後、次年度に向けて

<アドバイザー>

倉知 雪春先生（愛知文教大学）

<メンバー>（敬称略）

学校名	氏 名	学校名	氏 名
今渡南小	渡邊 悠斗	桜ヶ丘小	吉津 希代香
土田小	菊池 由佳	今渡北小	平光 良平
帷子小	玉田 夏野	兼山小	日比野さおり
春里小	石井 貴大	蘇南中	小池 美也子
旭小	安田 朋弘	中部中	春見 高德
東明小	後藤 茉奈美	西可児中	高木 康司
広見小	古山 宏将	東可児中	尾関 朝香
南帷子小	大石 凌輔	広陵中	中島 雷基

今年度は、小学校グループと中学校グループに分かれて研究を進めていきます。

新学習指導要領では主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点が以下のように示されています。

- ①学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点
- ②子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点
- ③習得・活用・探究という学び過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点

これらの視点を基に、協働学習の授業実践を通じて、主体的・対話的で深い学びができる児童生徒を育成していくよう研究を進めていきます。

第2回は、倉知先生より、協働同学習に

ついて研修を受けました。「一人残らず子どもの学ぶ権利を実現し、その学びの質を高めること」「一人残らず教師の専門家としての成長を促進し、保護者や市民に信頼される学校を創造すること」という公教員の責務を所員一人一人が実感し、目の前の児童生徒の実態を捉え、日々実践を積み重ねていく心構えを新たにしました。



スマイリングルームの紹介

1 スマイリングルームの目指すところ

スマイリングルームでは、不登校の子どもたちが自分自身を見つめ、自分らしさを取り戻し、教室復帰ができるように支援します。平成7年に開設し、本年度27年目を迎えました。



スマイリングルームでは、①家庭的な雰囲気の中で心の居場所づくり ②体験活動などを通して人間関係づくり ③個に応じた学習を通して学習への姿勢づくり ④面談、SST、カウンセリングを通しての治療的活動 この4点を中心に取り組んでいます。

2 通級までの流れ

保護者や学校から利用希望があった場合、最初にスマイリングルームの見学と初回の面接を行います。そして1週間程度、『お試し』という形で通級をしていただき、引き続き利用したい場合は、『通級願い』を学校に提出していただきます。その段階で、研究所(室長及びスタッフ)、学校(教育相談担当及び担任)、スクールカウンセラーが集まり、『受理会議』を開催します。そこでアセスメントを行い、学校に『決定通知書』を届け、通級が始まります。

3 開設日と日課

月曜日～金曜日(水曜日は「チャレンジ登校日」)

9:20～ 9:30 朝の会

9:30～10:15 1限 学習タイム①

10:25～11:10 2限 学習タイム②

11:10～11:55 3限 マイタイム

11:55～12:00 ふりかえり

12:00～12:50 昼食・休憩

12:50～13:35 4限 学習タイム③

13:35～14:20 5限 マイタイム

14:20～14:45 掃除・ふりかえり



※「マイタイム」は、自分の興味関心のある活動(読書・絵を描く・運動など)に取り組めます。

4 スマイリングルームでの活動の様子

《学習への姿勢づくり》

個人の学習進度に応じて、ワーク、ドリルを使いながら学習します。不登校の要因の一つに、

学習への苦手感があります。興味を持たせながら、学習に向かう姿勢を高めていきたいと思っています。

《コミュニケーション能力と人間関係づくり》

不登校の子どもらは、人とかかわったり、コミュニケーションを取ることが苦手です。そのためスマイリングルームでは日課表に【マイタイム】という時間を設定し、運動やゲームを通して、仲間やスタッフと触れ合うことのできる場になっています。今卓球が一番の気で、子どもたちはピンポン玉を返し合いながら、交流を深めています。

アーラの協力で年9回「ワークショップ」を開催しています。毎回体を使ったり、楽器を使っての楽しいプログラムを準備していただけるので子どもたちは楽しく活動し、身体や言葉での表現力を高める場になっています。

外に出での体験活動も大事な場です。

「ぎふワールドローズガーデン」や鳩吹山にも出かけます。普段見せない元気な姿を見せてくれます。



今はコロナ禍で自粛していますが、【クッキング】はスマイリングルームの自慢の活動です。みんなで協力して調理し、全員で会食する。仲間と一緒に活動することの楽しさを教えてくれる活動です。

この他にも様々な体験活動を計画して子どもたちの元気を引き出していきます。

《治療的な側面》

カウンセラーによるカウンセリング、スタッフとの面談、SSTやSGEなどを通して、不安や悩みへの向かい方や集団生活をしていく上でのスキルを学ぶ場になっています。

5 最後に

不登校の子どもたちは、学校への一歩が踏み出せないだけで、本当は学校に行き友だちと一緒に学び活動したいと思っています。そんな一人一人の心に寄り添いサポートしていきます。

広陵エネルギー全開！ 「関わる」 転入者の声 笑顔の 春里小学校

可児市立広陵中学校 教頭 渡邊 有希



自分の居住地域でもある可児市に勤務して3か月がすぎました。朝は交通指導がてら生徒たちの登校を迎えようと考えていましたが、なんと7時40分を過ぎるころ職員室には誰もいない！「教頭先生は電話担当でお願いします」というお願いでした。全職員で消毒を片手に玄関に立ち、生徒を迎える朝が毎日続きます。「おはよう！」と先生達のさわやかな声があふれ、生徒たちも少し恥ずかしそうに、でもうれしそうに応えます。朝だけでなく、1日中ほぼ職員室には人がいません。悩む生徒の話聞く先生、教室に入りづらいと訴える生徒に寄り添う先生、巡回する先生、最初はみんなどこへ行っちゃったのだろう、と思いました。が本当にいつも全力で生徒に向かう先生達の姿にただただ感動でした。給食の配膳は「生徒とともに！」ということで全職員がマイエプロン・三角巾をつけて一緒に配膳をします。できるだけ早く配膳をし、少ない給食時間を有効に確保する試みで始まりました。4年生の職員もちろんエプロンを装着し、まだ慣れない1年生のクラスに入って手伝います。

マスク生活で表情が読めなくなり、コミュニケーション能力の低下が心配される現代だからこそ、広陵中学校生徒会のスローガンは「関わる」です。5月には体育祭が行われました。先輩が後輩へ練習の仕方を教えたり、後輩が先輩を全力で応援したり、そしてクラスでは取り組み期間に少しでも記録を伸ばそうと何度も話し合いました。広陵中には地域のボランティア団体「エール広陵」があります。体育祭前日には16張りものテントを地域から運んでくださり、設置、後片付けまでしていただきました。今年は保護者参観もでき、200人ほどの保護者の方が応援に駆けつけてくださいました。まさに「関わる」体育祭で、広陵エネルギー全開の日となりました。この元気な温かい職員と一緒に、生徒たちのために1日1日を全力で取り組んでいきたいと思っています。

可児市立春里小学校 教諭 野口 洋憲



6年ぶりに可児市に戻って参りました。私が教員になりたいと思ったきっかけは自身の中学生の頃にあります。当時お世話になった先生方の熱心に親身に指導してくださる姿に憧れを抱いたからです。そして、指導して下さった先生方同士のつながりにあたたかさを感じたからです。自分が中学生の時に魅力に感じた同僚性が、可児市にはあると思います。

市をまたぐ異動のため、わからないことだらけでした。学校や学年の行事について見通しがもてない中、学年主任を任せていただいたことにとっても不安を感じました。春里小学校の職員室は、わからないことを質問するとどれだけ忙しくても手を止めて、丁寧に教えてくださる方ばかりです。学年が2クラスのため、学年の枠を越えて支え、助けていただけるので、安心して仕事に励むことができています。

春里小学校の合い言葉は「自分が好き 友達が好き 春里小が好き 春里が好き」です。すてきな言葉だと心から思います。算数の授業後に「仲間と話し合って問題が解けたから、いつもより楽しかった！」と笑顔で話しかけてくれた児童がいました。社会科の学習でさきゆりクリーンパークへ見学に行くと「春里の地域にこんなにすごい建物があるなんて知らなかった！」と驚く児童がいました。うれしかったことを素直に話せる児童が多く、すばらしい学校、地域に赴任できたことに喜びを感じています。

「自分が好き 友達が好き 春里小が好き 春里が好き」と笑顔で話せる児童を育てていくのに不可欠なのが教員の同僚性だと思います。そして、私自身もこの合い言葉を、胸を張って言えるようになりたいと思います。これからも児童の笑顔のために、春里小学校の職員の一人として、精一杯がんばっていききたいと思います。

令和4年度 教育実践論文募集



今年度も教育実践論文を募集します。

昭和58年度から始まった教育実践論文の募集も今年度で39回目となります。

日頃、可児市教職員の皆様が子どもの成長を願って、日々共に歩んでいる姿、教育活動の創意工夫を論文にしてみませんか。

多くの積極的な応募をお待ちしております。参考に、昨年度の領域別応募数・入賞者を掲載します。

1 令和3年度実践論文応募状況

領域別	数	領域別	数
教科	15	学級経営	0
道徳	3	健康安全	0
特別活動	1	その他	6
特別支援教育	1	合計	26

2 令和3年度実践論文審査結果

職名・所属名は、3年度現在です

☆ 優秀賞 (学番順)

大澤 久乃	教諭 他	東明小学校
金田ルツ紀	教諭	広見小学校
澤野 綾	教諭	今渡北小学校
波多野優也	教諭	西可児中学校
三品 達也	教諭	西可児中学校

☆ 優良賞 (学番順)

山越 栞奈	教諭	帷子小学校
中島 紅音	教諭	春里小学校
渡邊 卓実	教諭	今渡北小学校
中村 健太	教諭	中部中学校
更家 希	教諭	中部中学校
栗野 聖崇	教諭	西可児中学校
加藤 佑弥	教諭	西可児中学校

☆奨励賞 14名

3 募集要項

(1) 目的

可児市学校教育課題の克服をめざした小学校、中学校の教職員の創意ある実践研究を広く募集し、もって実践意欲の喚起と指導力の向上を図る。

(2) 内容

- ① 小学校、中学校の園児、児童、生徒の指導および管理運営に関する実践研究であるもの
- ② 問題意識が明白で、仮説・実践・検証の過程が具体的かつ累積的で、一貫性のある実践研究であるもの
- ③ 他の公的機関に発表していないもの

(3) 執筆要領 (要綱は、次の通りです)

- ① 使用言語 現代仮名遣いで書かれた日本語
- ② 使用ソフト ワード、又は一太郎 (様式は岐阜大学教育学部同窓会HPダウンロード可能)
- ③ 本文の形式

A4版6ページ (22字程度×43行～50行×2段横書き) 余白 上下左右各25mm程度)

- ・1ページ目の冒頭に研究主題・(副主題)・所属・職名・氏名を記載する (46文字程度×5行以内×1段)。上下に二重罫線を引く。

- ・1ページ目に「概要」(46字程度×10行)を記載する。(入賞者についてはこの「概要」をそのまま論文集に掲載)

- ・MS明朝 (見出しはMSゴシック)

④ 写真・図・表の使用

写真は、全6頁で2枚程度 (各写真の大きさは11文字×5行以内)

図及び表は、全6頁で合わせて4点程度 (各図・表は判読できる大きさとする。)

写真等は、「写真1」「図2」「表3」などのように一連番号を付し、簡単な説明を付ける。

⑤ 参考資料

本編以外の資料は添付しない。

⑥ 参考文献等

参考文献等がある場合は、論文の最後に年代順に一括掲載する。

⑦ その他

写真等は児童生徒が特定されないように留意する。

※詳しくは、「岐阜大学教育学部同窓会HP」参照

(4) 提出先 可児市教育研究所

(5) 提出期限 令和5年1月10日 (火)